



ほほえみだより

笑顔いっぱい 生き生き
今日も来てよかった治田東の子ども

栗東市立治田東小学校

第9号

令和5年11月29日

「思い出」をつくる

本校では、12月5日(火)から11日(月)を「校内人権週間」として、各学年で人権教育の授業をおこなったり、人権にちなんだ取組をしたりします。しかし私たちが願うのは、「校内人権週間」という短い期間だけでなく、全教育活動を通じて、一人ひとりの人権が大切にされ、安心して自分らしさを表現できることです。



修学旅行もその一つです。11月1日(水)・2日(木)には、本校では4年ぶりの広島への修学旅行が実現できました。コロナ禍の前には、当然のように毎年できていた“広島での平和学習”でしたが、ここ3年間は叶いませんでした。子どもたちや引率者に感染症者が多く出た時の対応など、当日まで不安を抱えて迎えた修学旅行の朝、そこには6年生全員の笑顔がありました。そして、同行して目にした、時間を意識して5分前行動を心がける子どもたちの姿、平和について熱心に学ぶ姿、グループ行動で友だちを気遣う姿に、大きな感動を覚えました。6年生一人ひとりにとって、かけがえのない「思い出」になったことでしょう。

大切な「思い出」をつくること、それは決して容易なことではありません。今回の修学旅行実現に向けても、多くの心配や苦労がありました。これまで宿泊を一度も経験したことのない学年の子どもたち…親元から離れた見知らぬ土地で、子どもたちは元気で過ごせるだろうか…私たちは最悪のことを想定していくつものシミュレーションを行いました。ご家庭におかれても同様だったことでしょう。経費の負担はもちろんのこと、当日に至るまでの準備、お子さんの不安解消に向けての言葉かけ、そして特に、今秋は学級閉鎖も出るほど、インフルエンザが流行していましたので、ご家族を含めた健康管理も大変だったと思います。

子どもの「思い出」をつくることに大人が一生懸命になるのには理由があります。楽しかった、大切にされた「思い出」こそが、自分という大切な存在に気づかせてくれること、それはこの先の様々な困難を乗り越える糧になること、周囲の人を大切にするための方法を知ることだと、大人は気づいているからだと思うのです。6年生全員がそうした「思い出」を手にしたことを心から嬉しく思います。ご協力いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

子どもの「思い出」をつくることに大人が一生懸命になるのには理由があります。楽しかった、大切にされた「思い出」こそが、自分という大切な存在に気づかせてくれること、それはこの先の様々な困難を乗り越える糧になること、周囲の人を大切にするための方法を知ることだと、大人は気づいているからだと思うのです。6年生全員がそうした「思い出」を手にしたことを心から嬉しく思います。ご協力いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

12月1日(金)・2日(土)には、5年生のフローティングスクールがあります。こちら初めての宿泊、しかも船上での宿泊を経験することになります。成功に向けて全力を尽くします。



わかばっこの
つぶやき



最近、委員会活動がんばっている高学年の子どもたちの姿を見かけます。決まった当番活動を忘れずにするのはもちろんのこと、全校のみんなが楽しめるようなイベントを考えて実行している委員会があります。先日は、体育委員会による低学年の「バスケのシュート大会」がありました。低学年のために、台の上でフラフープを持ってボールを通りやすくしている人、順番にボールを渡す人、応援団として低学年の隣で一緒に見ている人…他者を意識して関わる様子を嬉しく思いました。

※子どもたちの学校生活の様子からつぶやきます。